



# 建築人

5

2012



大阪ホンマもん

今回からは、引き続き青森県弘前市に残る前川國男の建築群を紹介したい。戦前の処女作「木村産業研究所」(一九三二年)に始まり、戦後最初の公共建築として青森県立の「弘前中央高校講堂」(一九五四年)が完成した後、今度は「弘前市庁舎」(一九五八年)を皮切りに、地元弘前市に依頼された仕事が始まる。これは、当時の藤森市長が前川の東京の仕事が高く評価したことがきっかけだったという。残念ながら、この市庁舎は竣工時点では建築雑誌に紹介されなかった。しかし、その後の歩みから振り返るとき、前川にとって大きな転換点となる建築であったことが見えてくる。

一九五〇年、戦前から続いていた資材統制がすべて解除され、ようやく日本も、鉄筋コンクリートや鉄骨を用いた本格的な近代建築が建設可能な時代を迎える。そんな中、前川は、折しも依頼を受けた「日本相互銀行本店」(一九五二年)と支店群の仕事でベースに、日本の近代建築を欧米の水準に育て上げるべく、「テクニカル・アプローチ」と呼ばれる実践を試みていく。その目標として掲げられたのが、合理的でシンプルな構造体の追求と工場生産による安価で質の高い建築材料の開発を通じた建物の軽量化というテーマだった。こうして、一九五〇年代の前半期には、「神奈川県立図書館・音楽堂」(一九五四年)に代表されるように、透明感のある軽やかな建築が次々と生み出されていく。それは、前川にとどまらず、大げさに言ってしまうと、日本の建築界が、戦争をくぐり抜け、はじめて世界と並ぶインターナショナルな近代建築を実現させた瞬間だった。坂倉準三の「神奈川県立近代美術館」(一九五一年)や大江宏の「法政大学五三館」(一九五三年)などが、

同時代の空気を共有する。そして、「弘前中央高校講堂」も、そうした流れに沿う形で、薄い水平の庇が試みられたのだろう。

しかし、一九五〇年代後半に入ると、前川建築の様相は一変していく。そのことは、偶然にも、この「弘前市庁舎」と同じく、一九五七年に相次いで設計が始まった複数の公共建築に顕著な形でうかがえる。すなわち、「世田谷区民会館」(一九五九年)、「京都公会館」(一九六〇年)、「東京文化会館」(一九六一年)である。これらの建物には、

地に建設されたことも影響したのだろう。特徴的なのは、コンクリート打放しの柱と梁、そして、建物全体をめぐる頑丈な水平の庇から構成された堂々としたたずまひだ。また、断熱を図るために、外壁の腰壁には、空気層を持つ明るいオレンジ色の中空の特注レンガ・ブロックが積まれ、開口部は、外側のスチール・サッシュと内側の木製サッシュとを組み合わせて二重になっており、間に空気層が設けられた。さらに、議場となる大会議室には切妻の勾

地に建設されたことも影響したのだろう。特徴的なのは、コンクリート打放しの柱と梁、そして、建物全体をめぐる頑丈な水平の庇から構成された堂々としたたずまひだ。また、断熱を図るために、外壁の腰壁には、空気層を持つ明るいオレンジ色の中空の特注レンガ・ブロックが積まれ、開口部は、外側のスチール・サッシュと内側の木製サッシュとを組み合わせて二重になっており、間に空気層が設けられた。さらに、議場となる大会議室には切妻の勾

## 記憶の建築 松隈 洋

弘前市庁舎 1958年  
風土に育まれる造形へ



北東から見る市庁舎の全景



紺色に塗られた玄関ポーチの天井

それまでの軽量化を求めた最小限の構造体による最大限の空間の実現という論理からは出てこないような、大きな庇や骨太な構造体、タイルや自然石など素朴な建築材料の使用といった特徴が見られる。そして、「弘前市庁舎」こそ、そうした変化を先取りし、これらの出発点に位置する建物だと見なすことができると思う。それは、もちろん、雪深い弘前の自然環境の厳しさが前川に自覚させた結果に違いない。また、弘前城を囲む掘割の桜並木と追手門に面した敷

配屋根が架けられている。これらは、いずれも、余計なものをそぎ落とし、軽量化を図るモダニズムの原理からは導き出されることのない造形である。この市庁舎の竣工時点で、前川は次のように記していた。

「この市庁舎完成に際し市民の方々に設計者の解説を、加える多くの言葉を持たない。(中略)ただあの建物が深く張り出しているところのひさしは、この地方で「こみせ」と呼ばれる独特の柱廊を想起させるな

いであろうか。この皆さんの祖先の知恵が生んだ、あの見事な形式が、近來巷から姿を消して行くのを愛惜したものがあのひさしである。また雪に閉ざされて、色彩を失った世界に彩りを与えようと、外壁や腰に焼物ブロックを組織して、積極的な配色を試みた。さらにまたコンクリート打放し肌仕上げが表現しているものは、この建築における力学的構成であり、これは例えば人体の骨格に相当するものである。」(前川國男「贅言一束」東奥日報「一九五九年四月五日」)

この言葉からは、前川が「木村産業研究所」における手痛い失敗を契機に、最先端の工業化技術を用いた近代建築の追求という急な構図からは離れて、むしろ、日本の気候風土と生活の中で培われてきた伝統的な造形から謙虚に学び始めた考え方の深化を読み取ることができると思う。同時に、そこには、雪深い弘前の厳しい環境の中で、人々の心のよりどころとなる確かな近代建築の姿を模索しようとする前川の強い意志も語られている。そして、この市庁舎である手ごたえを得たからこそ、続く「京都公会館」において、後の「打込みタイル」と呼ばれる独自の構法につながる焼物を用いた外壁や水平の大庇、京都の寺院建築を模した勾配屋根をもつホールの造形が生み出されていったのだろう。そう考えるとき、弘前の前川建築群は、そのまま前川の建築家としての軌跡に重なることが見えてくる。その意味からも、「弘前市庁舎」は、風土に育まれる造形を求めた前川の原点に位置する建築なのだと思う。

松隈 洋 京都工芸繊維大学教授、博士(工芸)。一九五七年兵庫生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年より現職。

# テクノロジー Technology

## 民家改修による小規模多機能居宅介護事業所の開設手続きとその効果

### －「ほのぼの旭ヶ丘の家」改修工事を事例として－

# 北 聖志

**北 聖志**

一級建築士
1976年 大阪府生まれ
2001年 神戸大学大学院 博士前期課程修了
2001年 二井清治建築研究所
2007年 THINK一級建築士事務所設立
NPO法人福医建研究会快居の会会員
大阪府建築士会会員



外観1 アプローチから玄関を見る



外観2 緑台から縁側を見る



図1) 小規模多機能の定員と設備基準

登録定員	25人以下
通い	登録の1/2～15人以下
宿泊	通いの1/3～9人
・居間及び食堂	通いの利用定員×3㎡以上
・宿泊室	(1名もしくは2名)7.43㎡/人
	プライバシーが確保できるのであれば、居間も宿泊室に含めて可

図2) 既存建物転用型における小規模多機能の耐震基準の適用

耐震基準	件数	割合
新耐震	58件	29.0%
旧耐震だが耐震改修済	41件	20.5%
旧耐震	31件	15.5%
不 明	150件	41.1%
合 計	365件	100.0%

※文1より抜粋

図3) 既存建物転用型における小規模多機能の耐震基準の適用

注1) 富山型デイサービスとは赤ちゃんからお年寄りまで、障害があってもなくても一緒にケアをするという活動方式で、行政は柔軟な補助金の出し方を行っている。

注2) 現在は東日本大震災で被災した団体を対象に助成を行っている。日本財団HPを参照。

**地域で介護する場をつくる**

小規模多機能居宅介護事業所(以下、小規模多機能)とは、1980年代に自発的に始まった宅老所をモデルとして、2006年4月の介護保険制度改正により創設された地域密着型サービスの一つである。在宅を基本として住み慣れた地域で通い、泊り訪問を行う介護事業所のことで、利用者にとっては通いでも訪問でも顔なじみの職員が対応するので人間関係を築きやすい。また、職員にとっては継続的に利用者と接することができるので、その日の調子などをきめ細かく見られて、柔軟なケアプランを立てやすいこともメリットである。施設整備基準については図1に示すとおりである。

このような在宅を支援する拠点を、民家改修によって開設することによって、利用者はご近所の家に訪問するような感覚でサービスを受けることが可能となる。

小規模多機能に関する研究報告文(注1)によると既存建物を利用したものが約32%ある。その中でも耐震性に関して、旧耐震基準の建物が15.5%、不明と答えた事業者が35.0%となっている。(図1)このように耐震をはじめとする安全性を満たすための各種の法的整備が課題となっている。

本稿では、実例をもとに既存建物を利用した小規模多機能への改修におけるポイントと法的整備について紹介する。

#### 民家改修型の計画となった経緯

今回紹介する「ほのぼの旭ヶ丘の家」は、大阪府の堺市で2009年8月にオープンした小規模多機能である。計画の経緯は、NPO法人ほのぼのステーションメンバー(以下、NPO)が富山型デイサービス(注1)についてのセミナーに参加したことから始まる。堺でも富山のような活動をしたいという想いと2006年4月より小規模多機能が制度化されるということがきっかけとなり、2006年に「家族と一生住み続けることができるケア付き住宅の創設」というテーマでハウジング&コミュニティ財団(以下、H&C財団)より助成を受け、研究会を始めた。

そこで1年間、小規模多機能とケア付き住宅を作ることを目指して、プロジェクト会議、見学会、ワークショップなどを重ねた。筆者も設計者として新築案・テナント案など具体的な検討を行った。(文2)その後事業計画と候補地検討を続ける中、2007年7月にこの民家付きの敷地が候補に挙がった。NPOはこの民家の雰囲気気が気に入り、施設としての基準を満たせるかどうかについて、ある程度検討を行った上で購入。設計、確認申請の後、工事中工し2009年6月末に竣工した。

このように当初から民家改修型で進めていたわけではなく、民家の雰囲気が気に入ったこと、改修型で行うことで補助を受けることができたこと、(注2)旗竿敷地で費用的に購入しやすかったことなどから結果的に民家改修型として進めることになった。

#### 平面計画のポイント

計画に関しては、もとの建物の高齢者が馴染みやすい雰

気を残しつつ、小規模多機能の機能を満たす平面計画、構造改修、断熱改修、バリアフリー化、介助のしやすい空間の確保などが改修のポイントとなった。

最初に、平面計画はエレベーターを設置する必要がないように小規模多機能を1階に完結させることを基本とした。その上でこれまで法人が行ってきたヘルパー派遣事業の事務所を2階に配置した。既存建物に一部平屋で増築した棟があったので、その部分を解体し、改めて2階建てに増築した。台所・食堂については15人が食事可能なスペースが必要であったので元応接室部分を拡張しスペースを確保した。利用者15人と介助スタッフが座れる食堂となると家らしさが損なわれる可能性があるが、既存の木構造の間取りの中で計画することで嫌が上でも空間を分節することになり、結果的にはそれが家らしいスケールを保つ要素となった。増築した部分にはリフト付きの浴槽や安静に休憩できる宿泊室を計画した。

動線計画は正面玄関以外にも車椅子のスロープによるアプローチを想定し、建物内は既存の畳スペースは残しつつ、車椅子の移動が想定される部分をフローリングに変更した。できるだけ通路幅を確保するために食堂－廊下間の建具は撤去し一体的な空間とした。また、庭に面した縁側が単に動線としてではなく、庭との関係を意識した居場所となることを想定し、既存縁側内法約800mmから300mmを拡張した。

今回の改修では既存の鴨居高さが1750mm程度だった。背の高いスタッフにとって通行上支障を生じるため、食堂から廊下など頻繁に移動する部分は鴨居を撤去したり、鴨居の高さを上げた。一方、居室との入口で建具や襖などを残す部分はそのまま利用するなど既存のスケール感を残しつつ、主要な動線での障害となる部分を取り除いた。

#### 採光と断面計画

この敷地の区画には戦後の空中写真で確認すると、母家であったこの民家のみが現在の場所に建っていた。その前面道路に面した両脇を親族たちが相続したことにより旗竿状の敷地形状となり、母家は住宅に囲まれた状態となっていた。このように密集した住宅地では採光が十分取れない部屋があるが、この民家でも台所と廊下が非常に暗い空間であった。隣地境界線からの離隔距離も十分ではなかったため、法規上の居室の採光を確保するためにも思い切って天井を撤去して小屋組を表し、トップライトを設けることによって明るく抜けた空間とした。宿泊時の落ち着きを損なわないように、小屋組を現しとする範囲については、宿泊室として利用しない部分に限った。その他、法規上必要な採光を確保するため、トップライトを設けている。

#### 構造上の改修

改修前の基礎は、外周部立ち上がりが無筋コンクリートで、内部は東石に柱が立っている状態であった。改修の場合、既存の基礎にあと施工アンカーなどで布基礎を抱き合わせることも考

られる。(文3)しかしながら、今回は既存基礎の強度があまり期待できなかったため、撤去し屋根瓦・葺土を下ろした状態で、柱を鋼製束で支えながら新しくベタ基礎を施工した。(写真1)その後、基礎と土台をケミカルアンカーで緊結した。軸組については、湿気やシロアリにより腐朽している部分を新しく入れ替えて、構造体が現になっている状態で全面的に防蟻処理を行った。

構造計算については、伝統的民家の改修で採用されている限界耐力計算も考えられる。しかし、今回は屋根瓦と葺土を落とした上で金属葺きの軽い屋根にすること、一部の柱に引き抜き力が集中しないように壁要素を適切に配置して、壁量計算でクリアしている。

#### 断熱改修と冷暖房設備

改修前は隙間風が吹き、床が冷えすぎて非常に冷たかった。高齢者にとって寒暖差はヒートショックを引き起こす原因にもなり、細心の注意が必要である。断熱については、新設床根太間、屋根にポリスチレンフォームを、壁面柱間にグラスウールを充填し建物を覆う形で新設した。小屋裏のある部分については、小屋裏通気による寒さを防ぐために天井部分にグラスウールを敷き込んでいる。

外部周りの建具については基本的に新設のペアガラスとしている。既存の木製框戸を使用した縁側や玄関の木製格子戸については隙間風を防ぐのは難しいが、縁側、玄関共に居室との間にはもう一枚建具を引くことができるようになっていることで寒さは軽減できるものと考えている。

冷暖房設備については、小屋組現し部分を含め台所・食事室の新しくフローリングを貼った部分と脱衣室には床暖房を設置し、その他の部分は家庭用のヒートポンプエアコンで対応している。

#### バリアフリー改修と水廻り設備

床については、敷居も含めて全てバリアフリーに改修した。また、車椅子の建物内へのルートとして、正面玄関脇にスロープ設置して庭側(緑台)から入れるようにしている。廊下と食堂の建具を撤去して一体化することで往き来を容易にし、畳をできるだけ残しつつ車椅子のスムーズな移動を実現するためにフローリングの範囲で主要な経路を移動できるように配慮した。その他正面玄関の引違戸の袖壁をなくし通行しやすいよう開口部を拡げている。

水廻りについて、トイレは通常の家よりも使用頻度が高くなるため縁側に1箇所と車椅子や介助が、必要なときに使いやすい広いものとの合計2箇所としている。(写真2)浴室はシャワーキャリーなどで介助しながらでも移動しやすいバリアフリータイプの3枚引戸と介助負担を減らすためにリフト付きの浴槽としている。しかし利用者にとって入浴がリラックスする場であって欲しいというNPOの想いから仕上げは桧板貼りで浴槽も桧風呂でリフトをコンパクトに収納できるものを採用している。(写真3)

#### 民家改修による場合の建築関係法規

□建築基準法

小規模多機能で既存建物の利用を考える場合、日中の通りの最大人数が15人として泊りが5～9人となることを考えると現在の一般的な戸建て住宅ではその広さを満たすものは少ない。少し大きめのお屋敷や住宅2軒分、もしくは増築が必要となってくる。増築床面積が既存床面積の1/2を超えることから既存部分についても現行法規基準の遡及適用が必要となった。(文4)

また施設用途の床面積が100㎡以上の場合、用途変更が必要となってくる。小規模デイサービス施設の場合は100㎡以下の場合もあるが、小規模多機能では宿泊室も必要となってくるので計画面積は100㎡を超え、用途変更申請が必要となる。今回は建設が戦前ということで1950年の建築基準法施行以前であり、用途変更をする以前に確認申請が必要となり、結局すべて現行の法規に適合するよう確認申請を行うことが必要となった。

用途が建築基準法での児童福祉施設等に該当する場合、建築基準法施行令114条2項に定める防火上主要な間仕切り壁が必要となる。宿泊室3室以下かつ100㎡以下に区画する壁、及び避難経路を区画する壁を準耐火構造の壁にする必要があり、今回は小屋裏に防火上主要な間仕切り壁を施工している。

□消防法

消防法上の設備としては、誘導灯、非常警報設備、消火器を設置している。自動火災報知設備については小規模多機能の用途は消防法令別表1(6)項へにあたるため対象外となる。またスプリンクラー設備については、2009年4月より小規模施設への設置が義務化されている。ここでいう小規模施設とは275㎡以上のグループホームなどの対象施設((6)項口)であり今回は該当していないが、予防措置として消防より火災報知設備が配布され設置している。

□バリアフリー法

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(以下バリアフリー法)に関してバリアフリー法に基づく条例として大阪府福祉のまちづくり条例が2009年10月以降改正されており、用途変更申請が必要となる場合、適合が必要となる。

#### 民家改修による効果と今後求められるもの

今回の計画を新築でなく改修で実施したことによる効果を以下に3つ挙げる。

□居心地のいい施設らしくない家

畳や漆喰壁や竿縁天井や木製建具という素材感や8畳程度で仕切られる続き間や不便もあるが鴨居の低さと言ったスケール感がもとの雰囲気を残している。また、増築でも既存のそれらに合わせて漆喰を使ったり、障子を入れたりすることでその雰囲気が継承された。

□質の高い設え

床の間や格子建具や欄間など一から作るには費用がかかるが、あるものを補修したりして利用することで価値のあるものを使用することができた。

□地域とのつながり

近隣の人々にとっては昔から馴染みのあった「○○さんの家をリフォームした」という印象で感じてもらえたことや家で幼少期を過ごした元所有者にも地域でこの建物が役立つことを喜んでもらえたりして物理的な建物も思い出も継承され、地域活動の拠点としては大きなメリットであった。(写真4.5)
費用的な面では今回全面的な改修を行ったため、新築と同等の費用がかかっているが、改修に対して補助があったので、その補助分程度が費用的な効果となっている。

法的整備や工事工程に関しては、単に解体して新築するよりも手間のかかる内容となったが、在来軸組工法はまだ他の構造や認定工法に比べ改修しやすい方である。しかしこれからは手間をかけて資源を活かすことが大切になり、より再生を意識した建て方とそのため法的整備が求められるのではないだろうか。



写真1) ベタ基礎打設前の様子



写真2) 車椅子対応便所



写真3) 浴室とリフト付き浴槽



写真4) 2周年イベントの様子



写真5) 日常の様子

写真提供
写真1-3：THNK一級建築士事務所
写真4.5：ほのぼのステーション

参考文献
文1) 西野達也+石井敏+井上由起子：小規模高齢者施設における防火対策と耐震対策に関する研究事業報告、医療福祉建築 No.168 201007
文2) 編集・発行：財団法人ハウジングランドコミュニティ財団、第14回「住まいとコミュニティづくり活動助成」報告書
文3) 発行：財団法人日本建築防災協会、木造住宅の耐震診断と補強方法－木造住宅の耐震精密診断と補強方法（改訂版）一、P128
文4) 発行：一般社団法人木を活かす建築推進協議会、建築確認手続き等の運用改善マニュアル「小規模建築物用（木造住宅等）」

# 第5回 建築人賞

主催：社団法人 大阪府建築士会  
後援：社団法人 大阪府建築士事務所協会（予定）

社団法人大阪府建築士会では  
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に  
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより  
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として  
建築人賞を実施しています。

## ■ 審査委員長 石堂 威（都市建築編集研究所）



1942年 台北市生まれ  
1964年 早稲田大学第一理工学部建築学科卒  
(株)新建築社入社  
1980年～ 「新建築」編集長（1991年まで）  
1985年～ 「住宅特集」創刊編集長（1987年まで）  
1992年～ 「GA JAPAN」創刊編集長（1995年まで）  
1996年～ 都市建築編集研究所 設立 代表  
2008年～ 第1回から現在まで建築人賞審査委員長

## ■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞（賞状と記念盾）  
建築人奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には感謝状授与

## ■ 第5回 対象作品

「建築人」2012年1月号から2012年12月号まで  
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

## ■ 応募資格

設計者が近畿2府4県の建築士会正会員か  
大阪府建築士事務所協会正会員であること。

## ■ 審査方法（2段階審査）

一次審査 建築人誌面より選定  
二次審査 二次審査資料により選定（現地視察含む）

## ■ 受賞発表

建築人 2013年7月号誌面

## ■ 問い合わせ

社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係  
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」  
ガラスアーティスト 三浦啓子作

## 『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2012

会報誌「建築人」では、Gallery に掲載する作品を  
募集しています。

### 【掲載料】

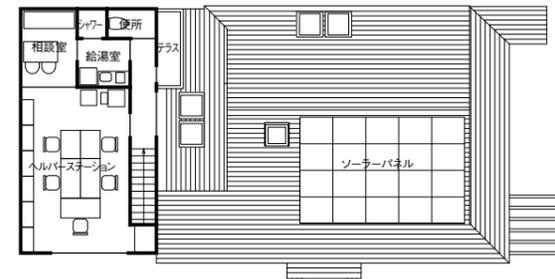
カラー 2ページ 20万円  
カラー 1ページ 10万円  
モノクロ 2ページ 10万円  
モノクロ 1ページ 5万円

※モノクロページは住宅に限ります。

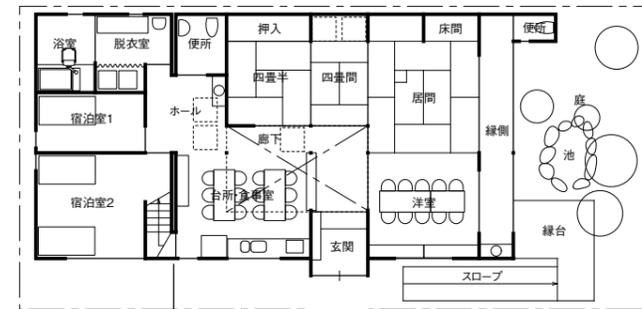
詳しくは、社団法人大阪府建築士会「建築人」  
Gallery 建築作品掲載係まで。



改修前1階平面図 S=1:250



2階平面図 S=1:250

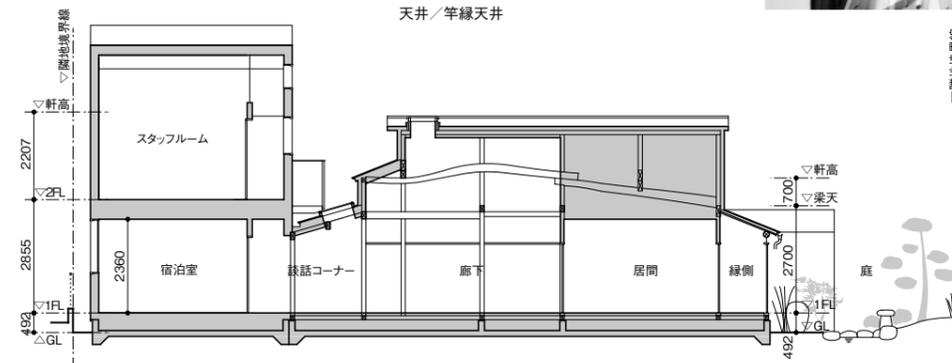


配置図兼1階平面図 S=1:250

## ほのぼの旭ヶ丘の家

所在地/大阪府堺市  
主要用途/小規模住宅介護事業所  
設計監理/THNK一級建築士事務所  
担当 北聖志 宮野順子  
施工/株式会社山本建築  
構造規模/木造2階建  
敷地面積/275.52㎡  
建築面積/148.50㎡（建蔽率53.90% 許容60%）  
延床面積/189.95㎡（容積率68.95% 許容200%）  
地域地区/第一種住居地域 法22条地域

外部仕上げ  
屋根/耐摩ガルバリウム鋼板横葺き  
壁/弾性リシン吹付  
開口部/アルミ製、木製  
外構/アプローチ:色モルタル瓦模様入り  
内部仕上げ  
台所・食事室  
床/熱圧加工杉フローリング厚15mm蜜蝋塗  
壁・天井/漆喰塗料  
居間  
床/畳敷き  
壁/漆喰塗料  
天井/竿縁天井



断面図 S=1:200



上段:トップライトのある台所・食堂  
中段:居間から庭を見る  
下段:拡張した縁側を見る  
(撮影:北聖志)



計画は、敷地に、間口8.2m×奥行18m×高さ9.7mの木造3階建のキュービックな箱を置き、諸室と、大きさの異なる四つの庭を散在させてコートハウス形式とした。1階から上階に上ってゆくに連れ、室で区切られていた庭(吹抜)が、垂直・水平へと立体的に繋がってゆき、開放的で複雑な抜けや、様々なシークエンスが生み出される空間となっている。そこでは、家族の気配をどこにいても感じられ、壁に囲まれた空へとびる開放的なデッキテラスと内部が、大開口により繋がっていく。庭に植えられた緑と共に季節を感じ、光や風などを楽しみながら、都市の中で気持ちよく暮らせる、性能性とデザイン性を両立させたパッシブなエコ住宅の提案である。

所在地：兵庫県姫路市  
用途：専用住宅  
竣工：2011.6  
構造規模：在来木造  
敷地面積：186.99㎡  
建築面積：112.03㎡  
延床面積：245.23㎡  
写真：福澤昭嘉

地階抜きの車庫は、坂道からスムーズに入出力できる斜め駐車とし、前面道路に対して40度振った配置とした。それによって、生まれた空地が来客用駐車スペースとなり、建物自体も道路よりセットバックしたことで、街並みに対し緑地を提供している。内部は車庫の向きによって直上階は南を向き、直下階に車庫のある1Fと基準1Fとに生じるレベル差を利用したスキップフロアの各スペースが、南側の庭を囲むように配置され、どのスペースからでも日照や庭への眺めを確保し、場所ごとに庭との関係性が築かれている。坂道を上ってくる足取りのまま地階から1階、2階、ルーフトラスまでが緩やかに繋がり、この連続性が「流れ」のある空間を生み出している。

所在地：兵庫県神戸市  
用途：専用住宅  
竣工：2011.11  
構造規模：WRC造+木造  
敷地面積：228.94㎡  
建築面積：79.52㎡  
延床面積：173.40㎡  
写真：福澤昭嘉

## 第31回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)入賞作品

主催 大阪府・大阪市・(社)大阪府建築士会・(社)大阪府建築士事務所協会・(社)日本建築家協会近畿支部

◆表彰目的 周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。

◆対象 大阪府域内の建物(平成18年8月1日から平成22年9月30日までに完成したもの)及び建物を中心としたまちなみ(平成22年9月30日までに完成したもの)で、一般の方々から推薦を受けたもの。

◆審査委員 ※50音順 審査委員長\*

天野 直樹(建築) 社大阪建設業協会委員	下村 泰彦(造園) 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授	夏原 晃子(デザイン) 美術造形デザイナー	藤本 英子(芸術) 京都市立芸術大学美術学部デザイン科教授
清原 道也(建築) 社大阪府建築士事務所協合理事兼情報委員長	庄野 利博(建築) 社日本建築家協会近畿支部副支部長	久 隆浩*(都市計画) 近畿大学総合社会学部環境系専攻教授	
指田孝太郎(建築) 社大阪府建築士会相談役	中嶋 節子(建築) 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授	平山 長雄(報道) 朝日新聞大阪本社 社会部長	

### 大阪府知事賞 桜の家



建築位置：箕面市桜  
完成年月：2010年2月  
主用途：戸建住宅  
建築主：阪本 猛  
設計者：大西憲司設計工房  
施工者：西友建設㈱  
撮影者：福澤昭嘉

〔講評〕  
大規模な建物が多数審査対象となる中、建築面積162㎡の物件が大阪府知事賞を受賞することは、個人の施主や小規模設計事務所の励みになることでもある。小規模建築物、そして個人住宅が知事賞となるためには、さまざまなデザイン配慮やそれを引き出す施主の想いが必要であるが、本件の場合、祖父から受け継いだ庭木や門、蔵への想いがデザインの継承につながっている。祖父が大切にしていた2本の松の老木は見越しの松となってまちなみに潤いを与え、地域のサロンに改修された蔵は移築した庭門とともにまちなみのシンボルとなっている。  
(審査委員長 久 隆浩)

### 大阪市長賞 中之島ダイビル



建築位置：大阪市北区中之島3-3  
完成年月：2009年3月  
主用途：事務所  
建築主：ダイビル㈱  
設計者：(株)日建設計  
施工者：鹿島建設㈱  
撮影者：エスエス大阪

〔講評〕  
大阪中心部の中之島に位置する本施設は、建物本体低層部の来訪者を招き入れるようなゲートの意匠が、近景景観に重厚感を与え、高層部の柱と庇が織りなす彫りの深いファサードが、中景景観にスリムさと洗練さを与えている。また、敷地南側では、10mを超えるクスノキがシンボルツリーとなり、株立ちのヤマボウシや低木のサツキツツジが道行く人々に緑量感と彩りを提供しているといった点が評価できる。  
(審査委員 下村泰彦)

### まちなみ賞 大阪富国生命ビル



建築位置：大阪市北区小松原町2-4  
完成年月：2010年9月  
主用途：事務所 商業施設 学校  
建築主：富国生命保険相互会社  
設計者：清水建設㈱  
デザイナー・アキテクト：  
ドミニク・ペローアーキテクチュラル  
施工者：清水建設㈱  
撮影者：新建築社写真部

〔講評〕  
梅田の繁華街の一角を占める此処は、以前の記憶がすっ飛んでしまうくらい見ているだけで楽しくキラキラしている。特に南西の三角部分のステンレス鏡面材の組み合わせは昼も夜も多角で複雑な光景を展開し街行く人の眼を惹く。北側の東商店街へもアーケードを備え従来の東商店街への繋がりと配慮も見られる。柵型の看板は見やすいデザインでアトリウムへ誘導する。用がなくても入って中を地下道へ通り抜けたり周りをウロつきたいチャーミングな街角だ。  
(審査委員 夏原晃子)

### ◆審査総評

本年の審査対象75件(建物68件、まちなみ7件)から審査資料にもとづいた1次審査で10件を選出し、現地審査による2次審査を行った。受賞作品は、個人住宅、オフィスビル、商業施設、学校施設、宗教施設とバラエティゆたかなものとなっている。大阪府知事賞の桜の家は、阪神淡路大震災で大きなダメージを受けた農家住宅を二世帯住宅として建て替えたものであり、旧家にあった庭の門を、地域住民の交流サロンに改装した蔵の入口に移設するなど、かつての建物イメージを継承したものとなっている。大阪市長賞の中之島ダイビル、まちなみ賞の大阪富国生命ビルも、建て替え物件であり、奇遇ながら今回三賞を受賞した物件すべてが建て替え物件となった。しかし、従前建物のイメージの継承方法が作品によって異なっていた。大阪市長賞の中之島ダイビルは、名建築として親しまれてきたダイビル本館建て替えの第一弾となるもので、柱列やアーチなどのモチーフを本館から引き継いでいる。また、昨年までは建築士会長賞を引き継いだまちなみ賞を受賞した大阪富国生命ビルは、樹木をイメージさせるべく樹皮を表現した凹凸のカーテンウォール、ブナ林の写真をガラス転写したフォレストウォールなど、従前建物とは異なる新たなデザインへの挑戦となっている。デザインの挑戦という意味では、奨励賞の金光教大阪センターも創意工夫を行っている。大きくない敷地を有効活用しようと斜めにせり上げた外壁は独特のフォルムを形成している。一方、近畿大学食堂棟 BLOSSOM CAFÉ はオーソドックスな形状ながらテラス等で凹凸をつけ、大学キャンパス入り口に面した建物として地域のランドマークとなっている。また、追手門学院大学1号館はサクラの花びらにデザインしたアルミキャストパネルで建物を覆ったダブルスキンとなっており、古くから桜の名所として親しまれてきた地域のイメージを継承している。さらに、本町ガーデンシティは、低層部と高層部の興行きの違いから生まれる低層屋上部に日本庭園を設置し、緑地が不足しがちな都心部に潤いを与えている。



審査委員長 久 隆浩

### 奨励賞 本町ガーデンシティ



建築位置：大阪市中央区本町3-6-4  
完成年月：2010年5月  
主用途：事務所 商業施設 ホテル  
建築主：積水ハウス㈱  
設計者：(株)日建設計  
大成建設㈱  
施工者：大成建設㈱  
撮影者：仲佐 猛

〔講評〕  
御堂筋の新しい本町の顔をつくり、歩行者空間を回廊で提供すると共に、御堂筋のまちなみ線と、高さ50mの低層階で調和をはかりながら、生み出された屋上に1000㎡の日本庭園を設けているところも評価された。ばらつきのある色の石組みによる丁寧な外壁が、質の高い表情を実現している。  
(審査委員 藤本英子)

### 奨励賞 追手門学院大学1号館



建築位置：茨木市西安威2-1-15  
完成年月：2009年7月  
主用途：学校  
建築主：学校法人 追手門学院  
追手門学院大学  
設計者：(株)三菱地所設計  
施工者：(株)大林組  
撮影者：黒住直臣

〔講評〕  
このキャンパスの建築群はいくつかのスタイルが混在しているがそれぞれの質が非常に高く、新たに全く異質のこの建物が挿入されてもそんなに違和感がない。それどころか響き合っている感さえある。タイポロジーを超えたところで意味が付与されているからであろう。桜のインテリアは実に美しい。  
(審査委員 天野直樹)

### 奨励賞 近畿大学食堂棟 BLOSSOM CAFÉ



建築位置：東大阪市新上小阪5-8-6  
完成年月：2010年3月  
主用途：学校  
建築主：学校法人 近畿大学  
設計者：(株)安井建築設計事務所  
施工者：(株)大林組  
撮影者：津田裕之

〔講評〕  
「大学」のキャンパスストリートと「まち」の府道の両面に開かれた爽やかなラウンジスペース。キャンパスストリートに面するオープンな大階段が、内部のダイニングスペースから屋上テラスまでをダイナミックに繋げ、「大学」と「まち」に賑わいを演出している。  
(審査委員 指田孝太郎)

### 奨励賞 金光教大阪センター



建築位置：大阪市中央区久太郎町1-4-1  
完成年月：2009年9月  
主用途：事務所  
建築主：宗教法人 金光教  
設計者：(株)日建設計  
施工者：(株)大本組  
撮影者：東出清彦

〔講評〕  
中小規模の事務所ビルと集合住宅が雑然と並ぶエリアに、忽然と置かれた彫刻のような建築である。コンクリートの塊から削りだされたフォルムは、美しいだけでなく、スケール感、テクスチャー、歩道空間への配慮において、周囲に馴染み、やさしい表情を見せている。  
(審査委員 中嶋節子)

# INFORMATION

## Sponsorship

<p><b>建築士会からのお知らせ</b></p>
---------------------------

#### 平成24年度通常総会・式典・懇親会

日時	5月30日(水) 15:30～19:30
会場	ホテル大阪ベイタワー4階 <p>大阪市港区弁天1-2-1</p> スケジュール <p>総会　15:30～16:30</p> <p>式典・表彰式　16:50～17:50</p> <p>・第58回大阪建築コンクール表彰</p> <p>・第4回建築人賞表彰</p> <p>・名誉会員称号呈呈</p> <p>・永年会員表彰等</p> 懇親会　18:00～19:30
会費	6,000円、要事前申込
展示	第58回大阪建築コンクール受賞作品・第4回建築人賞受賞作品パネル展示
※詳細	は本号同封のご案内をご覧ください。

<p><b>建築士会からのお知らせ</b></p>
---------------------------

<p><b>平成24年度　建築士定期講習</b></p> <p>5/28・6/26・7/11・8/9</p> <p>CPD各6単位〔統括〕</p>
---

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成21年度に建築士定期講習を受講した方、及び平成21年度以前に建築士試験に合格した建築士の方で建築士定期講習をまだ受講していない方は、平成24年度中に当該建築士定期講習を受講することが必要です。

<p><b>■講習日および講習会場</b></p> <p>日程　5月28日(月)、6月26日(火)、7月11日(水)、8月9日(木)</p> <p>時間　9:30～17:30(受付は9時より)</p> <p>会場　大阪国際会議場 <p>大阪市北区中之島5-3-51</p> <p>定員　各600名</p> <p><b>■受講申込締切</b></p> <p>5月28日開催分:4月27日(金)</p> <p>6月26日開催分:5月25日(金)</p> <p>7月11日開催分:6月27日(水)</p> <p>8月　9日開催分:7月 9日(月)</p> <p>それぞれ消印分まで</p> <p>(大阪での申込受付は郵送のみ)</p> <p>簡易書留郵便でご送付ください。</p> <p>定員に達し次第、受付を終了</p> <p>受講料　12,900円(消費税含)</p> <p><b>■受講申込先・申込書配布場所</b></p> <p>大阪府建築士会事務局</p> <p>大阪府建築士事務所協会事務局</p> <p>申込期日まで、営業時間内に随時配布(無料)。</p> <p>定員になり次第配布も終了。</p> <p>申込書はホームページからでもダウンロードできます。</p> <p>詳細　http://www.aba-osakafu.or.jp/pdf/20110405.pdf</p></p>
--

<p><b>新入会員向け企画</b></p> <p><b>「甲陽園目神山町の家」見学会</b></p> <p>5/26　CPD2単位</p>
--

平成23年12月以降にご入会いただきました会員の方を歓迎し、岸下真理氏の住宅の見学会を開催いたします。第57回大阪建築コンクール大阪府知事賞および第5回「関西建築家新人賞」を受賞された「甲陽園目神山町の家」の内部見学と岸下氏の住宅についてのお考えを伺います。ここに家が建つのかという急角度の斜面。その斜面を登り降りする時の身体感覚を素直に空間化し、眼下に広がる眺望を効果的に取り込むための空間構成を体感していただけます。

<p><b>平成24年一級建築士試験案内</b></p>
------------------------------

**■受付場所**における受験申込
**配布期間**／4月23日(月)～5月14日(月)
(土曜日、日曜日、祝日は除く。5/12(土)、5/13(日)は受験申込書の受付を行う所定の受付会場に限って配布を行う)

配布時間	9:30～17:00
(5/14(月)は9:30～16:00)	
配布場所	大阪府建築士会
	大阪市中央区谷町3-1-17
	ジョイント大手前ビル5階
受付期間	5月7日(月)～5月14日(月)
	(土、日を含む)
受付時間	10:00～17:00
受付場所	大阪府建築士会
学科試験日	7月22日(日)
会場	大阪工業大学、関西大学
設計製図試験日	10月14日(日)
会場	大阪府立大学

<p><b>建築士会からのお知らせ</b></p>
---------------------------

<p><b>建築士会からのお知らせ</b></p>
---------------------------

この展示は全て本誌建築人の「釜山の建築」に掲載されたものです。これらの作品を、より多くの大阪府民の方々にご覧いただき、釜山の現代建築を見て、今の釜山を感じて頂ければ幸いです。

日程	開催中～5月12日(土)
時間	10:00～18:00
会場	キッチンハウス大阪店
	大阪市西区新町1-7-20
入場料	無料

<p><b>建築士のためのお茶会勉強会</b></p> <p>5/16・22</p>
--

<p>建築士の礼儀作法のひとつとして、お茶の作法を学ぶため毎月開催している勉強会です。</p> <p>日時　5月16日、22日</p> <p>定員　各600名</p> <p><b>■受講申込締切</b></p> <p>原則毎月第3水曜日及び第4火曜日)</p>
--

<p>場所　よみうり天満橋文化センター</p> <p>費用　年会費6,000円+1回2,500円</p> <p>先生　藤井宗照(そうき)先生</p> <p>問合せ　本会事務局</p>
---

平成23年12月以降にご入会いただきました会員の方を歓迎し、岸下真理氏の住宅の見学会を開催いたします。第57回大阪建築コンクール大阪府知事賞および第5回「関西建築家新人賞」を受賞された「甲陽園目神山町の家」の内部見学と岸下氏の住宅についてのお考えを伺います。ここに家が建つのかという急角度の斜面。その斜面を登り降りする時の身体感覚を素直に空間化し、眼下に広がる眺望を効果的に取り込むための空間構成を体感していただけます。

日時	5月26日(土)　1班13:00～14:30
	2班14:45～16:15

講師	岸下真理(Atelier KISHISHITA)
定員	30名(申込先着順)
参加費	会員1,000円・会員外2,000円
※平成23年12月以降入会の方無料。	

<p><b>すぐに役立つ実践塾</b></p> <p><b>「確認申請のいろ・は」</b></p> <p><b>第3回「申請書類の作成」</b></p> <p><b>5/27　CPD4単位〔統括〕</b></p>
--

木造住宅2階建ての申請図面の申請書類の作成について説明いたします。これで確認申請の書類は完成です。1回目 2回目に参加されていなくても単独で受講できます。

開催日	5月27日(日) 13:00～17:00
会場	ハービスOSAKA4階イベントルーム
出演者	野村充(知事賞)、赤木隆(知事賞)、小幡剛也(知事賞)、香川貴範(渡辺節賞)、中西正佳(奨励賞)
定員	40名(申込先着順)
参加費	会員1,000円　会員外2,000円
参加費	無料

<p><b>「建築士の会　堺」</b></p> <p><b>堺太陽光発電所の見学会・総会</b></p> <p>6/1　CPD3単位</p>
--

<p><b>「堺太陽光発電所」</b>(通称：メガソーラー)の見学会を行います。堺太陽光発電所は、21ヘクタールの敷地(甲子園球場の約5倍)にソーラーパネル(太陽電池)がびっしりと設置され、その数、約7万4,000枚。ここだけまるで広大なガラスの海のようなです。見学会終了後に「総会及び懇親会」を予定しています。</p> <p>日程　6月1日(金)</p> <p>内容　13:00南海本線「堺駅」堺駅前のりば集合受付。13:30出発。</p> <p>17:30～総会+懇親会</p> <p>定員　30名(申込先着順)</p> <p>参加費　2,000円(バス代+資料代)</p> <p>※総会・懇親会参加の場合5,000円</p> <p>※申込者には参加証を送信します。</p>
---

<p><b>建築士の会　南河内</b></p> <p><b>「建築士のための植栽知識の勉強会と花の文化園散策と総会」</b></p> <p>6/2　CPD3単位</p>
--

外構、植栽計画など園芸についての知識を習得する勉強会を企画しました。植栽スペースの作り方、庭木の種類と特徴、庭、花壇の手入れの仕方、等々植栽に関する問題に専門家がお答えします。

日時	6月2日(土)13:15～16:00
場所	花の文化園(河内長野市高向)
参加費	1,500円(入園料含む)
スケジュール	13:30～15:00園内会議室にて勉強会、15:00～15:13 24年度総会、15:15～16:00園内散策、自由解散。
申込	5月18日(金)までに事務局へ
※植栽におけるお困りの問題を申込み締切日までに事務局へお知らせください。	

<p><b>第58回大阪建築コンクール</b></p> <p><b>受賞者講演&amp;ディスカッション</b></p> <p>6/7　CPD2単位〔統括〕</p>
--

大阪建築コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者である本会会員を表彰するものです。第58回を迎えた今回、受賞者による講演会を企画いたしました。受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。また、審査委員とのトークセッションも予定しております。パネル等の展示も行いますので、ぜひ足をお運びください。

日時	6月7日(木)18:00～20:00
	(受付17:30～)
会場	ハービスOSAKA 4階イベントルーム
出演者	野村充(知事賞)、赤木隆(知事賞)、小幡剛也(知事賞)、香川貴範(渡辺節賞)、中西正佳(奨励賞)
定員	50名(会員・会員外・学生どなたでも参加できます)
参加費	無料

<p><b>建築士の会北摂設立10周年企画</b></p> <p><b>「関西学院大学・神戸女学院のヴォーリス建築見学会」および活動報告会</b></p> <p>6/16　CPD4単位(予定)</p>
--

建築士の会北摂設立10周年を記念しまして西宮市に広がるヴォーリスの大学キャンパスを山形先生のご案内で見学します。関西学院大学では吉岡記念館、時計台、神学部チャペル、旧牧師館等をまた神戸女学院では総務館、講堂、チャペル、図書館本館などを見学する予定です。見学会終了後活動報告会、懇親会も開催予定です。

日時	6月16日(土)
	13:00～18:00(活動報告会まで)
関西学院大学見学会	
神戸女学院見学会	
活動報告会	
懇親会(希望者のみ)	
集合　関西学院大学正門前(12:30受付開始)	
案内　山形政昭(大阪芸術大学教授)	
定員　40名(地域優先ですが、地域外の方もOK)	
参加費　会員1500円　会員外2000円	
	(懇親会は別途3500円程度予定)
※申込者には1週間前に参加証(地図等詳細)をFaxで送ります。	

<p><b>建築士の会　河内</b></p> <p><b>「建築士のための植栽知識の勉強会と花の文化園散策と総会」</b></p> <p>6/2　CPD3単位</p>
---

<p><b>ゴルフクラブコンペのご案内</b></p>
-----------------------------

日時	6月23日(土)
集合	8:00　スタート8:28
会場	レイクフォレスト
参加費	16,000円程度
	(プレー費、会食費等含む)
募集	6組
申込	本会ゴルフクラブ

<p><b>福祉住環境コーディネーター2級</b></p> <p><b>受験対策講座《模擬試験》</b></p> <p>6/24　CPD4単位</p>
---

7月8日(日)に実施予定の第28回検定試験に向けて、2級受験対策講座《模擬試験》を実施します。	
日時	6月24日(日)　13:00～17:00
場所	大阪府建築士会内会議室
内容	模擬試験+解説
定員	30名
受講料	会員3,500円、非会員5,000円

<p><b>本会の催し参加申込方法</b></p>
---------------------------

FAX・メール・郵送で、催し名、参加者名、会員No、勤務先、参加証送付先住所、同電話 &FAX番号(自宅又は勤務先)を明記の上、事務局までお送り下さい。

<p><b>問合せ・申込</b></p> <p>大阪府建築士会事務局</p> <p>〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17</p> <p>TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103</p> <p>メール info@aba-osakafu.or.jp</p> <p>HP http://www.aba-osakafu.or.jp/</p>
---

## Administration

<p><b>行政からのお知らせ</b></p>
-------------------------

<p><b>CASBEE大阪(大阪府温暖化の防止等に関する条例)制度改正説明会</b></p>
---

<p>大阪府では、「大阪府温暖化の防止等に関する条例」を改正し、平成24年7月1日より施行します。新制度の説明会を下記の日程で開催します。</p> <p>5月16日(水)　15:00～16:00</p> <p>大阪府新別館北館4階職員会議室7・8</p> <p>5月18日(金)　15:00～16:00</p> <p>堺市役所本館地下1階会議室B</p> <p>5月28日(月)　11:00～12:00</p> <p>大阪府新別館北館4階多目的ホール</p> <p>6月1日(金)　15:00～16:00</p> <p>南河内府民センター第2・第3会議室</p> <p>6月4日(月)　15:00～16:00</p> <p>三島府民センター第6会議室</p> <p>6月7日(木)　15:00～16:00</p> <p>北河内府民センター第4会議室</p> <p>参加費　無料</p> <p>申込締切　各回開催日の1週間前</p> <p>問合せ　大阪府住宅まちづくり部建築指導室</p> <p>審査指導課建築環境・設備グループ</p> <p>Tel.06-6210-9725</p> <p>大阪府建築物の環境配慮　◀検索</p>
--

<p><b>「みどりの風促進区域」内における都市計画誘導制度が新たに5市の区域で追加(大阪府)</b></p>
---

<p>大阪府はみどりが少なく暑い都市であるため、大阪府を取り囲む海と山をつなぐ「みどりの風の軸」をつくることとし、府域に12の「みどりの風促進区域」を指定し、区域内の緑化等の取り組みを重点的に進めています。昨年の松原市に加え新たに5市(池田市、門真市、守口市、高石市、泉大津市)の区域で緑化等の一定の要件を満たすと建ぺい率や容積率が緩和されます。(平成24年4月2日施行)</p> <p>問合せ　大阪府都市整備部総合計画課土地・地域利用計画G</p> <p>Tel.06-6941-0351(内線4917)</p>
---

<p><b>本会の催し参加申込方法</b></p>
---------------------------

<p><b>Others</b></p> <p><b>その他のお知らせ</b></p>
---

<p><b>第25回村野藤吾賞決定と授賞式・記念講演会のお知らせ</b></p>
--

<p>受賞者　西沢立衛</p> <p>受賞作品　豊島美術館</p> <p>・授賞式</p> <p>日時　5月15日(火)　13:00～</p> <p>会場　宝塚市庁舎1階市民ホール</p> <p>兵庫県宝塚市東洋町1-1</p> <p>申込　不要</p> <p>入場　無料</p> <p>・記念講演会</p> <p>主催　村野藤吾記念会</p> <p>共催　宝塚市</p> <p>日時　5月15日(火)　13:45～15:15</p> <p>会場　宝塚市庁舎3階大会議室</p> <p>講演　受賞作品について(仮)</p> <p>講師　西沢立衛</p> <p>申込　不要</p> <p>入場　無料</p> <p>詳細はHPをごらんください。</p> <p>http://www.muranotogoprize.com/</p>
---

<p><b>幻燈で見る懐かしい明治建築</b></p> <p><b>「堺周辺の明治・大正・昭和戦前の建築」</b>スライド上映会</p>
--

各地で開発計画が進められ、貴重な近代の歴史遺産が、姿を消しています。大切に保存されている建築、取り壊された懐かしい建築の数々を幻燈で見ながら保存と取り壊しの現実、歴史遺産の保存の意義について考えます。
なお、5月15日～19日まで、堺市立東図書館で「ミニ建築資料展」(近代建築、戦争遺構についての保存要望書など)をします。ご関心のある方はご自由におこしく下さい。

日時	5月19日(土)　11:00～
会場	堺市立東図書館会議室
	南海高野線北野田駅前アミナス北野田4階

<p>幻燈の内容</p> <p>大浜公会堂、潮湯、旧浜寺町役場、旧浜寺停車場、旧遊郭、銭湯など</p> <p>講師　明治建築研究会代表　柴田正己</p> <p>問合せ　近現代建築史研究会</p> <p>Tel.072-236-3357</p>
---

<p>いえかるて「住宅履歴情報」普及シンポジウム</p> <p><b>～家を建てたら記録することが大事～(大阪開催)</b></p>
--

<p>中古住宅の設計や、施工、維持管理等に関する住宅履歴情報サービス機関と連携していえかるて「住宅履歴情報」を活用する事業者の方々から、いえかるての活用事例や、関係事業者の方々にいえかるての活用の可能性や期待することなどについてご紹介いただきます。</p> <p>主催　一般社団法人住宅履歴情報蓄積・活用推進協議会</p> <p>日時　5月31日(木)　13:30～16:30</p> <p>会場　大阪市立住まい情報センター</p> <p>大阪市北区天神橋6-4-20</p> <p>定員　295名(申込順)</p> <p>参加費　無料</p> <p>問合せ　一般社団法人住宅履歴情報蓄積・活用推進協議会</p> <p>Tel.03-5211-8623</p>
--

<p><b>東洋+西洋＝伊東忠太</b></p> <p><b>～よみがえった西本願寺「伝道院」～</b></p>
--

<p>大規模復元修理でよみがえった伝道院を中心に伊藤忠太が手がけた建築作品や関係資料を通じて、彼の建築に対する考え方や作品の魅力を紹介します。</p> <p>主催　大阪くらしの今昔館(大阪市立住まいのミュージアム)</p> <p>一般財団法人ギャラリー・エークウッド</p> <p>協力　㈱竹中工務店大阪本店</p> <p>会期　6月9日(土)～7月8日(日)</p> <p>開催時間　10:00～17:00</p> <p>(入館は16:30まで)</p>
--

<p>休館日　火曜日・第3月曜日</p> <p>会場　大阪くらしの今昔館企画展示室</p> <p>大阪市北区天神橋筋6-4-20</p> <p>大阪市立住まいミュージアム</p> <p>入館料　300円(企画展のみ)</p> <p>問合せ　大阪くらしの今昔館</p> <p>Tel.06-6242-1170</p>
---



～よみがえった西本願寺「伝道院」～西本願寺伝道院全景（撮影：古川泰造）

<p><b>アイカ現代建築セミナー(大阪会場)</b></p>
---------------------------------

<p>主催　アイカ現代建築セミナー実行委員会</p> <p>日時　7月5日(木)　18:30～20:30</p> <p>講演者　西沢立衛「近作を語る」</p> <p>会場　御堂会館大ホール</p>
--

<p>大阪市中央区久太郎町4-1-11</p> <p>定員　906名</p> <p>入場料　無料(申込み制、定員を超える場合は抽選)</p> <p>申込期間　5月1日(火)～6月10日(日)</p> <p>18:00まで</p> <p>申込等詳細はHPをごらんください。</p> <p>http://www.kenchiku.co.jp/aica</p>
---

<p><b>大阪歴史博物館</b></p> <p><b>特集展示「中村順平　建築芸術の探究」</b></p>
--

<p>主催　大阪歴史博物館</p> <p>期間　開催中～5月28日(月)</p> <p>時間　9:30～17:00(金曜20時まで)</p> <p>(入館は閉館の30分前まで)</p>
--

<p>休館日　火曜日</p> <p>会場　大阪歴史博物館8階特集展示室</p> <p>観覧料　大人600円</p> <p>(常設展示観覧料でご覧いただけます)</p> <p>関連事業「展示解説」</p> <p>日時　①終了　②5月5日(土・祝)</p> <p>③5月12日(土)　④5月26日(土)</p> <p>各回とも午後2時より30分程度</p>
--

<p>会場　大阪歴史博物館8階特集展示室</p> <p>担当　酒井一光(同館学芸員)</p> <p>参加費　無料(常設展示観覧券が必要)</p> <p>参加方法　当日直接会場へお越し下さい。</p> <p>問合せ　大阪歴史博物館</p> <p>Tel.06-6946-5728</p>
--

<p><b>大阪市立東洋陶磁美術館</b></p> <p><b>開館30周年記念特別展</b></p> <p><b>「国立マイセン磁器美術館所蔵マイセン磁器の300年」</b></p>
--

<p>会期　開催中～7月22日(日)</p> <p>時間　9:30～17:00</p> <p>(入館は閉館30分前まで)</p> <p>休館日　月曜日(7/16は開館)、7/17</p> <p>観覧料　1,000円</p> <p>会場　大阪市立東洋陶磁美術館</p> <p>大阪市北区中之島1-1-26</p> <p>問合せ　ハローダイヤル050-5542-8600</p> <p>http://www.moco.or.jp</p>
--

<p>「建築人」編集部から</p> <p>いつもご愛読ありがとうございます。</p> <p>「建築人」編集部では、読者からのご意見、ご感想をお待ちしています。</p> <p>*ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承下さい。</p> <p>*お寄せいただいたご意見・ご感想の著作権は「建築人」へ帰属し、「建築人」に転載させていただく場合がございます。</p> <p>*ご記入いただいた個人情報は、返信・連絡などの目的以外に使用したり本人の同意なしに個人が特定できる形で公表することはございません。</p> <p>*ご意見・ご感想は下記まで</p> <p>大阪府建築士会事務局</p> <p>〒540-0012 大阪市中央区谷町 3-1-17</p> <p>FAX.06-6943-7103</p> <p>メール info@aba-osakafu.or.jp</p>
---





## 桜の家 大西憲司

敷地は箕面市桜にあり、地名の通り、桜並木の美しい、落ち着いた古い集落の中にある。

両親が住む築80年の住宅は祖父の代に建てられ、今日まで住み継いできたが、阪神淡路大震災のダメージが大きく、近くに住む長男夫婦との2世帯住宅として建て替えることとなった。祖父が大事にしていた庭の2本の松の老木と、灯籠・蹲踞などを新しい庭に使うことを条件に計画を進めた。

セットバックした西側道路沿いに、コンクリート打放しの低い塀を巡らせ、新しい門の横に植えられた株立てのやまぼうしや、道路沿いに密植されたオカメザサと、南庭に移植された松や、新しく植えられたもみじ・桜・エゴなどが塀越しに頭を覗かせ、内外が一体になるように配置した。

旧家にあった庭の門を、地域の人達との交流の場としてサロンに改装した蔵への門として移設し、コールテン鋼のサビ屋根の新しい門と新旧が対比しながら、北側隣家の塀・植栽へとつながり、歴史を感じさせる蔵と共に通りが形成され、道行く人達の心を和ませる。

夕やみになると、ライトアップされ、昼間と違った魅力的な表情となり、又、防犯の役目も担っている。

時間の経過と共に、建物・庭・通りが、古い集落の街並みに溶け込み、緑豊かな美しい風景になっていくことを願う。

撮影：福澤昭嘉 大阪都市景観建築賞 大阪府知事賞受賞作品

### ■プロフィール

1948年 大阪府生まれ  
 1971年 近畿大学理工学部建築学科卒業  
 清水和弥設計事務所  
 1983年 オーク建築研究所  
 1998年 大西憲司設計工房開設  
 2003年 大阪建築コンクール 大阪府知事賞「御領の家」  
 2004年 大阪まちなみ賞 大阪府知事賞「御領の家」  
 2005年 大阪建築コンクール 大阪府知事賞「戸建の木集合住宅」  
 2011年 かんでん住まいの設計コンテスト 優秀賞「高倉台の家」

### ■建物データ

設 計：大西憲司設計工房 大西憲司  
 施 工：西友建設株式会社  
 所 在 地：大阪府箕面市  
 用 途：専用住宅  
 竣 工：2010年2月  
 構造規模：RC造+木造  
 敷地面積：391.30㎡(118.36坪)  
 建築面積：162.49㎡(49.15坪)  
 延床面積：250.00㎡(75.62坪)

